

岡本薫著「日本を滅ぼす教育論議」を読む

－真の教育改革の実現を考える－

「現状」が正しく認識された後には、これと「理想状態」を比較し、将来のある時点に向けて具体的な「目標」を設定していくことになる。

現状が理想状態でないのは、何らかの「原因」があるからだ。したがって、まず現状に問題をもたらしている原因を「特定」し、次にそれを「除去」する必要がある。

が、日本では、そうした発想が欠落していることが多い。例えて言えば、「タンクの水位が下がってしまっている」とときには、本来「穴を深くしてふさぐべきであるのに、穴をふさがずに「上から水を注ぎ続ける」ようなことをしている場合が多いのだ。P.56

岡本薫著「日本を滅ぼす教育論議」

岡本薫著「日本を滅ぼす教育論議」講談社、講談社現代新書 2006年1月19日刊

－ 2006年8月27日記－